２．教科に関する調査の結果（概要）

（１）調査問題の内容、課題等、指導改善のポイント

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕、〔思考力、判断力、表現力等〕の内容に基づき、全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題している。なお、小学校第5学年までの内容となるようにしている。

（例）■ 学校ボランティアの人たちにインタビューをして分かったことをまとめて書く。
■ グラフを用いて、学校の米作りの問題点と解決方法を書く。
■ 資料を読み、運動と食事について分かったことを基に、自分ができそうなことをまとめて書く。
■ 資料の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する。

○課題等

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

◇ 送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことはできている。〔 1三(2) 〕
◇ 文章の種類とその特徴について理解することはできている。〔 1四 〕
◆ 日常よく使われる敬語を理解することに引き続き課題がある。〔 3三 〕

情報の扱い方に関する事項

◆ 原因と結果など情報と情報との関係について理解することに課題がある。〔 1一 〕
◆ 情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことに課題がある。〔 2三 〕

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

◇ 必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることはできている。〔 3一(1)、(2) 〕
◆ 目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることに課題がある。〔 3二 〕

書くこと

◆ 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することに課題がある。〔 1二 〕

読むこと

◇ 目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約したものを選択することはできている。〔 2一 〕
◆ 目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることに引き続き課題がある。〔 2二 〕
◆ 文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることに課題がある。〔 2四 〕

◇･･･比較的できている点　　◆･･･課題のある点　　〔 〕内の記号は、問題番号

○指導改善のポイント

〔知識及び技能〕

言葉の特徴や使い方に関する事項

○　日常よく使われる敬語を理解し使い慣れる指導の充実

・　日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるようにすることが大切である。話したり聞いたりする活動を通して、敬語の使い方について理解できるようにしたり、学校行事や来客があったときに敬語の使い方を確認したりするなどして指導すると効果的である。

情報の扱い方に関する事項

○　情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使う指導の充実

・　情報と情報との関係を捉えながら、語句を丸や四角で囲んだり、語句と語句とを線でつないだりするなど、情報の関係を表す方法を指導することが大切である。様々な情報の整理の仕方を提示した上で、児童が自分の目的に合った方法を選ぶことができるように指導すると効果的である。また、〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」の指導事項との関連を図り、指導の効果を高めることが考えられる。

〔思考力、判断力、表現力等〕

話すこと・聞くこと

○　目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめる指導の充実

・　話を聞いて自分の考えをまとめる際には、話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることが重要である。相手が自分に伝えたいことや、自分が求めている情報などを明確にして聞くことが大切である。話し手の考えと自分の考えの共通点や相違点を整理したり、共感した内容や納得した事例を取り上げたりして、自分の考えをまとめることを指導すると効果的である。

書くこと

○　図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実

・　自分の考えを分かりやすく伝えるためには、図表やグラフなどを用いて、書き表し方を工夫することが大切である。必要に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することで、図表やグラフなどを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものになることを実感できるように指導すると効果的である。

読むこと

○　文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめる指導の充実

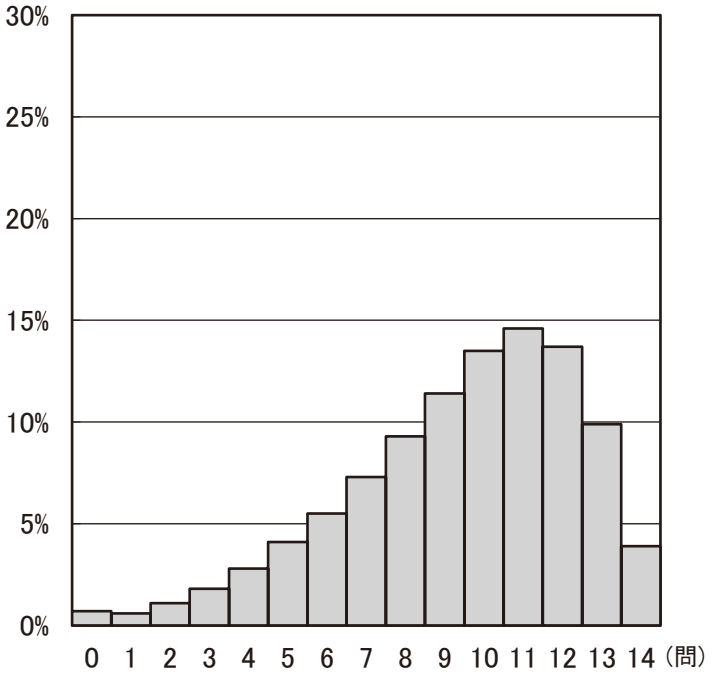
・　文章を読んで自分の考えをまとめるためには、文章の内容や構造を捉え、精査・解釈しながら考えたり理解したりしたことに基づき、既有の知識などと結び付けて自分の考えを形成することが重要である。〔知識及び技能〕の「情報の整理」の指導事項との関連を図り、複数の資料を読んで理解したことを整理したり、理解したことの中から既有の知識などに結び付くことを考えたりしながら、自分の考えをまとめることが大切である。考えをまとめる際には、〔知識及び技能〕の⑴「言葉の特徴や使い方に関する事項」の「思考に関わる語句」を使うことなどと関連を図り、理解したことと考えたことの関係が分かるようにまとめることを指導すると効果的である。

（２）集計結果（正答等の状況）

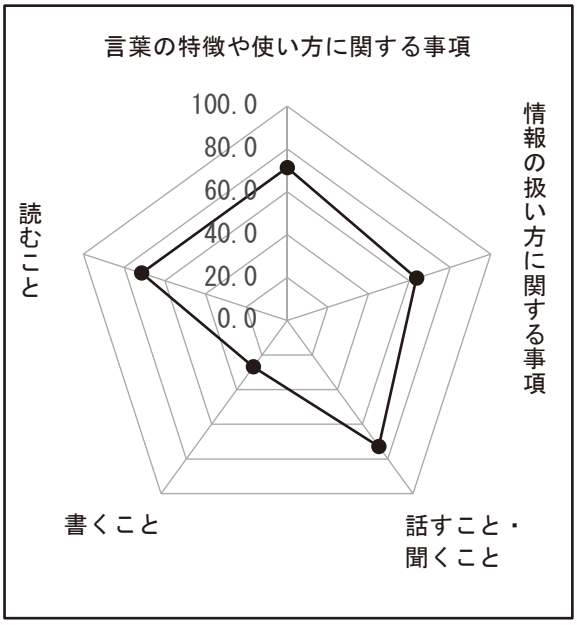
【国語】

児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差	最頻値
977,172 人	9.4 問/14 問	67.4%	10.0 問	2.9 問	11 問

正答数分布グラフ（横軸:正答数、縦軸:児童の割合）



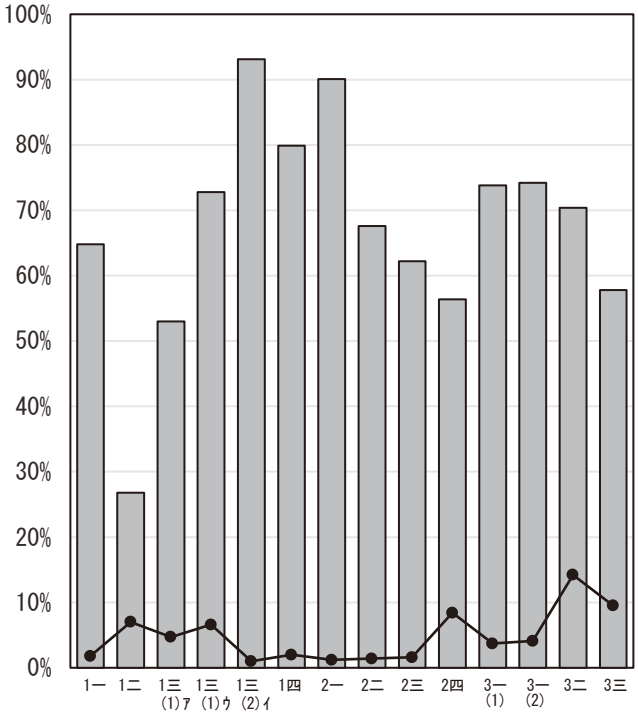
学習指導要領の内容の平均正答率



分類・区分別集計結果

分類		区分	対象問題数（問）	平均正答率（%）
学習指導要領の内容	知識及び技能	言葉の特徴や使い方に関する事項	5	71.3
		情報の扱い方に関する事項	2	63.5
		我が国の言語文化に関する事項	0	
	思考力、判断力、表現力等	話すこと・聞くこと	3	72.8
		書くこと	1	26.8
		読むこと	3	71.4
評価の観点		知識・技能	7	69.1
		思考・判断・表現	7	65.6
		主体的に学習に取り組む態度	0	
問題形式		選択式	9	73.7
		短答式	2	62.9
		記述式	3	51.2

問題別正答率「棒」・無解答率「折れ線」
（横軸：問題番号、縦軸：児童の割合）



問題別集計結果

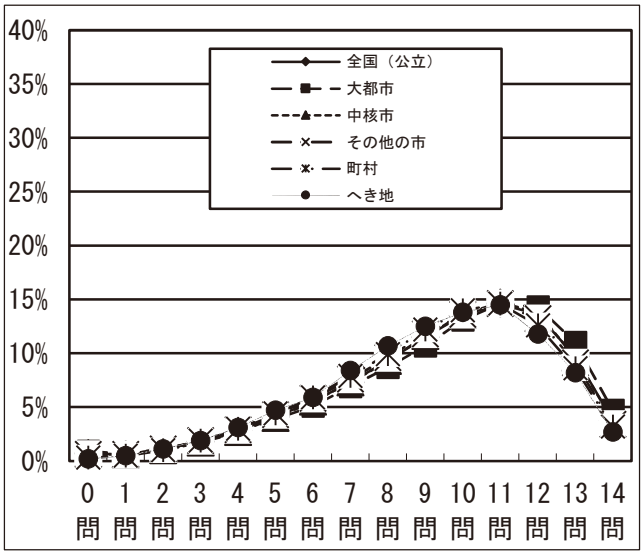
問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の内容						評価の観点			問題形式			正答率（%）	無解答率（%）
			知識及び技能			思考力、判断力、表現力等										
			言葉の特徴や使い方に関する事項	情報の扱い方に関する事項	我が国の言語文化に関する事項	話すこと・聞くこと	書くこと	読むこと	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度	選択式	短答式	記述式		
1ー	米作りのときに記録していた【カード②】と【カード③】の下線部の関係として適切なものを選択する	原因と結果など情報と情報との関係について理解しているかどうかをみる		5・6ア					○			○			64.8	1.8
1ニ	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかどうかをみる					5・6エ			○				○	26.8	7.0
1三（1）ア	【川村さんの文章】の下線部アを、漢字を使って書き直す（いがい）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6エ						○				○		53.0	4.7
1三（1）ウ	【川村さんの文章】の下線部ウを、漢字を使って書き直す（きかん）		5・6エ						○				○		72.8	6.6
1三（2）イ	【川村さんの文章】の下線部イを、送り仮名に気を付けて書き直したものとして適切なものを選択する（くらべて）	送り仮名に注意して、漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかをみる	5・6ウ						○			○			93.1	1.0
1四	【川村さんの文章】の特徴の説明として適切なものを選択する	文章の種類とその特徴について理解しているかどうかをみる	5・6カ						○			○			79.9	2.0
2ー	【資料１】と【資料２】に書かれている内容として適切なものを選択する	目的を意識して、中心となる語や文を見付けて要約することができるかどうかをみる						3・4ウ		○		○			90.1	1.2
2ニ	【相田さんのメモ】の空欄に当てはまる内容として適切なものを選択する	目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして必要な情報を見付けることができるかどうかをみる						5・6ウ		○		○			67.6	1.4
2三	相田さんが【資料３】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する	情報と情報との関係付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる		5・6イ					○			○			62.2	1.6
2四	資料を読み、運動と食事の両方について分かったことをもとに、自分ができそうなことをまとめて書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる						5・6オ		○				○	56.4	8.4
3ー（1）	【インタビューの様子】の傍線部ア（～ということだと思いますが、合っていますか。）のように質問をした理由として適切なものを選択する	必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉えることができるかどうかをみる				3・4エ				○		○			73.8	3.7
3ー（2）	【インタビューの様子】の傍線部イ（～というのは、どのような姿ですか。）のように質問をした理由として適切なものを選択する					3・4エ				○		○			74.2	4.1
3ニ	寺田さんと山本さんが、どのような思いでボランティアを続けているのかについて、分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じ、話の内容を捉え、話し手の考えと比較しながら、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる				5・6エ				○				○	70.4	14.2
3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかをみる	5・6キ						○			○			57.8	9.5

（３）地域の規模等の状況

○　平均正答数、平均正答率、中央値、標準偏差を見ると、地域の規模等（公立：大都市、中核市、その他の市、町村、へき地）による大きな差は見られない。

［国語］

正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



	児童数	平均正答数	平均正答率	中央値	標準偏差
全国（公立）	964,177人	9.4 / 14問	67.2%	10.0問	2.9問
大都市	266,812人	9.5 / 14問	68.2%	10.0問	3.0問
中核市	223,832人	9.4 / 14問	67.3%	10.0問	2.9問
その他の市	393,032人	9.3 / 14問	66.7%	10.0問	2.9問
町村	80,227人	9.3 / 14問	66.4%	10.0問	2.9問
へき地	14,383人	9.2 / 14問	65.7%	10.0問	2.8問

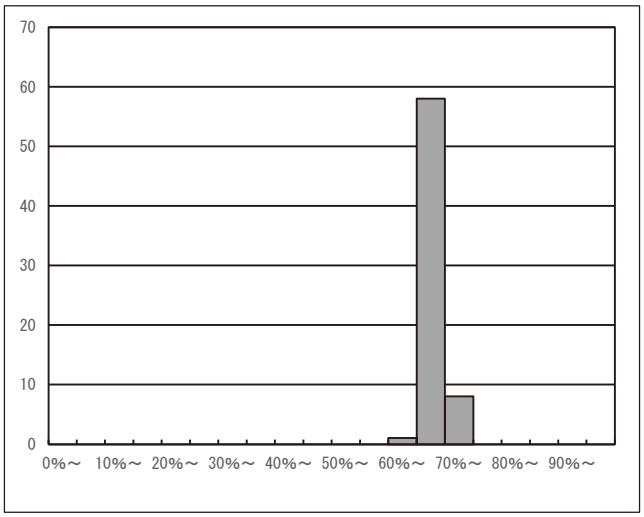
※大都市（政令指定都市及び東京 23 区）、中核市、その他の市、町村の値は、当該地方公共団体の教育委員会が設置管理する公立学校に在籍する児童の調査結果（正答数）を集計したものである（都道府県立学校は含まない）。
※へき地の値は、へき地教育振興法及び各都道府県の条例（規則）によって指定された学校に在籍する児童の調査結果を集計したものである。大都市、中核市、その他の市、町村の値に重複する。

（４）都道府県・指定都市の状況

○　各都道府県・指定都市（公立）の状況については、平均正答率を見ると、全ての都道府県・指定都市が平均正答率の±10%の範囲内であり、大きな差は見られない。

［国語］

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：都道府県・指定都市数）



全国（公立）の平均正答率	全都道府県市（公立）中、最高平均正答率【全国との差】	全都道府県市（公立）中、最低平均正答率【全国との差】
67%	72%【+5%】	63%【−4%】

※都道府県は指定都市を除く。全国（公立）の平均正答率は整数値で表示している。

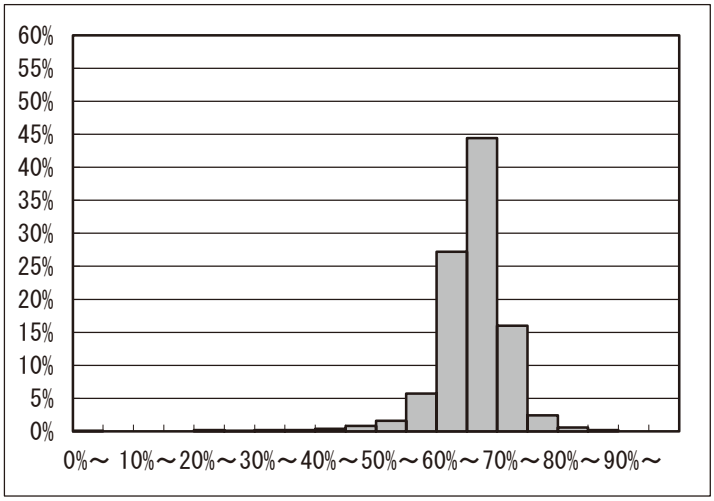
（５）教育委員会の状況

○　各教育委員会の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、令和４年度と比べ、ばらつきに大きな変化は見られない。

［国語］

教育委員会数	教育委員会の平均正答数	教育委員会の平均正答率	教育委員会の中央値	教育委員会の標準偏差
1,787	9.2 / 14問	65.9%	66.4%	6.2%

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：教育委員会の割合）



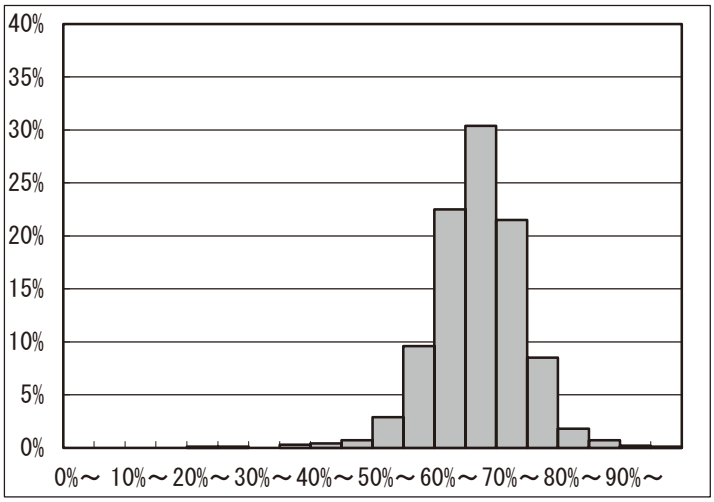
（６）学校の状況

○　各学校の状況については、全国平均からの離れ具合を表す平均正答率の標準偏差を見ると、令和４年度と比べ、ばらつきに大きな変化は見られない。

［国語］

学校数	学校の平均正答数	学校の平均正答率	学校の中央値	学校の標準偏差
18,820校	9.4 / 14問	66.9%	67.2%	7.5%

正答率分布グラフ（横軸：平均正答率、縦軸：学校の割合）

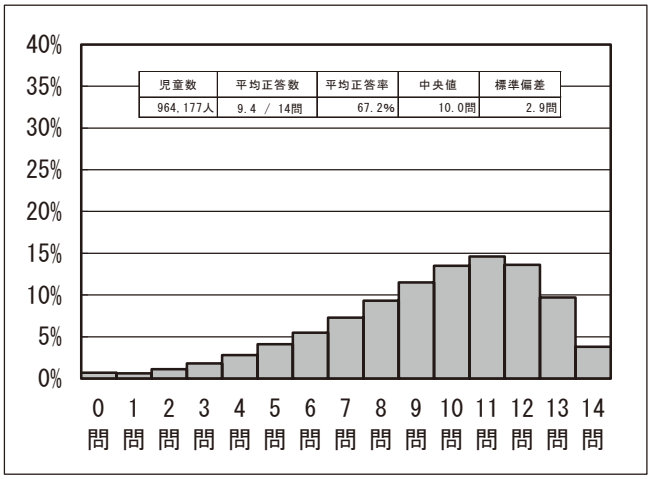


（７）国・公・私立学校の状況

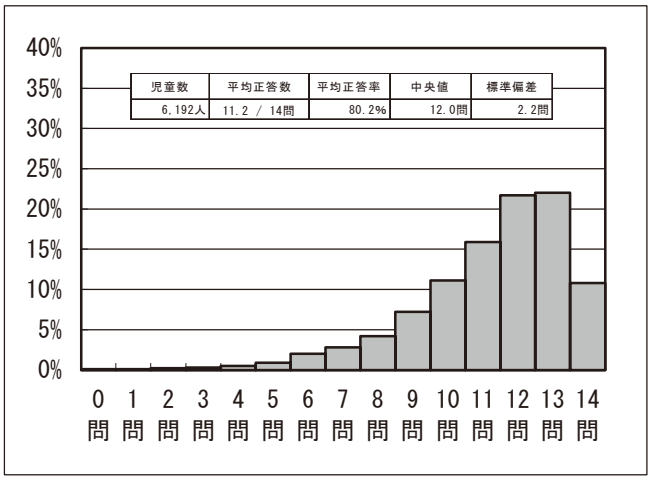
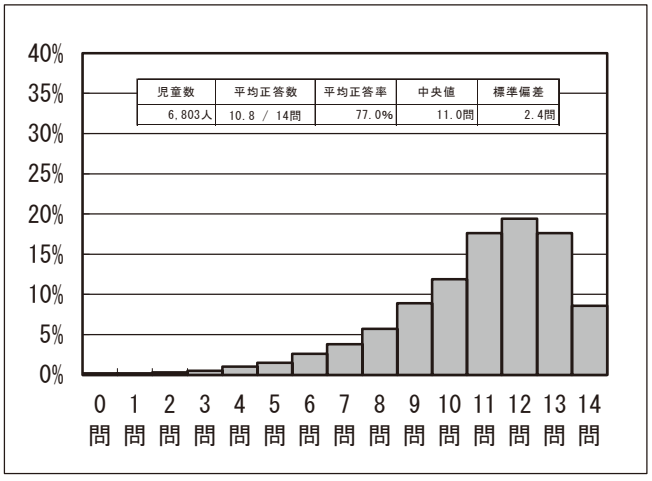
○　国立･私立学校は一般的に入学者選抜を行っていることに留意する必要があるが、平均正答数について見ると、国立・私立学校は、公立学校を上回っている。

[国語]

＜公立＞　正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



＜国立＞　正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）



＜私立＞　正答数分布グラフ（横軸：正答数、縦軸：児童の割合）